



平成19年3月期 第1四半期財務・業績の概況（連結）

平成18年7月31日

上場会社名 味の素株式会社

(コード番号：2802 東・大)

(URL <http://www.ajinomoto.co.jp/>)

代表者 役職名 取締役社長 氏名 山口 範雄

問合せ先責任者 役職名 財務部長 氏名 大野 弘道

TEL (03) 5250 - 8161

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

- ① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
 1. 法人税等の計上方法：見積実効税率を適用
 2. 貸倒引当金の計上方法：一部簡便法を適用
- ② 最近連結会計年度からの会計処理方法の変更の有無 : 無
- ③ 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有
 連結 (新規) 2社 (除外) 1社 持分法 (新規) 1社 (除外) 1社

2. 平成19年3月期第1四半期財務・業績の概況 (平成18年4月1日 ~ 平成18年6月30日)

(1) 経営成績 (連結) の進捗状況 (百万円未満切捨て)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期 (当期) 純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
19年3月期第1四半期	276,528	10,250	10,847	3,619
18年3月期第1四半期	261,454	7,611	8,614	3,459
(参考) 18年3月期	1,106,807	60,322	61,448	34,912

	1株当たり四半期 (当期) 純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期 (当期) 純利益
	円 銭	円 銭
19年3月期第1四半期	5.62	—
18年3月期第1四半期	5.36	—
(参考) 18年3月期	53.64	—

(2) 財政状態 (連結) の変動状況

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第1四半期	997,782	559,776	52.5	808.26
18年3月期第1四半期	886,946	469,207	52.9	724.01
(参考) 18年3月期	997,405	528,762	53.0	815.84

3. 連結範囲及び持分法の適用に関する事項

連結子会社数 103社 持分法適用非連結子会社数 4社 持分法適用関連会社数 12社

【参考】平成19年3月期の連結業績予想 (平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
中間期	580,000	23,500	23,000	11,000
通期	1,180,000	71,500	69,000	35,500

(参考) 1株当たり予想当期純利益 (通期) 54円 79銭

※経営成績等の定性的情報については、2～3ページをご参照ください。

1. 経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報

当第1四半期（平成18年4月1日～平成18年6月30日）の売上高は、前年同期を150億円上回り、2,765億円（前年同期比105.8%）となりました。営業利益、経常利益および四半期純利益は、それぞれ102億円（前年同期比134.7%）、108億円（前年同期比125.9%）、36億円（前年同期比104.6%）となりました。

なお、平成19年3月期の中間期および通期の業績予想に関しては、平成18年5月12日に発表したものに変更はありません。

〈国内食品事業〉

国内食品事業の売上高は、前年同期を14億円上回る1,504億円（前年同期比101.0%）、営業利益は前年同期を6千万円下回る39億円（前年同期比98.4%）となりました。

食品業界におきましては、天候不順や野菜価格の高騰などもあり依然厳しい状況が続いております。こうした中で主要製品の需要喚起のための施策を実施し、販売の拡大に努めました。

調味料につきましては、「ほんだし」は、和風だしの素市場が縮小傾向にあります。前年同期をやや上回る売上げとなりました。「味の素」は、昨年からの「アジパンダ」キャンペーンを引き続き実施して需要の喚起に努めましたが、前年同期を下回る売上げとなりました。蛋白質改質酵素製剤「アクティバ」類は、食肉加工分野等で順調に推移し、海外での伸びも大きく好調に推移しました。

加工食品につきましては、スープ類は、前年同期をわずかに上回る売上げとなりました。マヨネーズ類は、市場の総需要が伸び悩む中、特定保健用食品「ピュアセレクト サラリア」が大きく前年同期を上回りましたが、全体では前年同期を下回りました。「Cook Do（クック ドゥ）」は、野菜価格の高騰の影響もあり前年同期をやや下回る売上げとなりました。

甘味料・栄養食品につきましては、家庭用・外食産業向けの低カロリー甘味料は、「パルスweet」カロリーゼロを中心に順調に推移し、売上げが前年同期を上回りました。アミノ酸サプリメント「アミノバイタル」の売上げは前年同期を下回りました。

冷凍食品につきましては、家庭用は今春品質を改訂した「ギョーザ」を中心に広告と連動した販促活動を展開して、売上げを伸ばしました。業務用は、重点領域の拡売、重点販路の攻略に取り組み、売上げは前年同期を上回りました。

油脂につきましては、キャノーラ油等の好調により前年同期をやや上回りました。

コーヒー類につきましては、天候不順によりボトルコーヒーは微増にとどまりましたが、インスタントコーヒー、レギュラーコーヒーが順調に売上げを伸ばし、増収となりました。

飲料につきましては、天候不順の影響により、売上げは前年同期を下回りました。

チルド乳製品につきましては、4月から投入したテレビCMの効果等により、「ダノンビオ」の売上げが大幅に増加する等、好調に推移しました。

〈海外食品事業〉

海外食品事業の売上高は、前年同期を58億円上回る281億円（前年同期比126.4%）、営業利益は、前年同期を21億円上回る27億円（前年同期比478.3%）となりました。

調味料につきましては、2006年1月に連結対象としたアモイ・フード・グループの連結売上高への貢献もあり、売上げが大幅に伸長しました。アジアにつきましては、家庭用・外食市場向け「味の素」が為替の影響もあり増収となり、家庭用風味調味料は前期の売上げを大きく上回りました。米州につきましては、南米における家庭用風味調味料が為替の影響もあり大幅な増収となりました。欧州・アフリカにつきましては、西アフリカ諸国の家庭用「味の素」が前年をやや上回りました。

加工食品につきましては、アジアにおける即席麺は大幅に売上げを伸ばし、缶コーヒー「Birdy（バーディ）」も増収となりました。

〈アミノ酸事業〉

アミノ酸事業の売上高は、前年同期を47億円上回る648億円（前年同期比107.9%）、営業利益は、前年同期を10億円上回る40億円（前年同期比133.9%）となりました。飼料用アミノ酸、医薬中間体および化成品を中心に売上げが順調に推移し、営業利益については化成品が大幅な増益となったこと等により、前年を大幅に上回りました。

加工用うま味調味料につきましては、食品加工業向け「味の素」は、国内、海外とも販売価格の引き上げがあったものの、連結子会社減による売上げ減少の影響により売上げが前年同期を大幅に下回りました。核酸は、海外の大手需要家向けを中心に、売上げが前年同期を大幅に上回りました。

飼料用アミノ酸につきましては、リジンは、中国メーカー等の供給急増による販売価格の低迷が継続するものの、販売数量の増加により売上げは前年同期を上回りました。スレオニン、数量が伸び悩み、売上げは前年同期を下回りました。トリプトファン、売上げは、前年同期を大幅に上回りました。

医薬用・食品用アミノ酸につきましては、国内向けでは、医薬用アミノ酸が輸液市場の縮小と薬価改定に伴う価格下落により、食品用アミノ酸も飲料向け需要の大幅縮小により、いずれも売上げが前年同期を下回りました。海外では、欧米を中心に輸液類向けなどの医薬用アミノ酸が順調に推移しました。

甘味料につきましては、大手需要家向けの販売が堅調に推移し、売上げが前年同期をわずかに上回りました。

医薬中間体につきましては、欧州での販売が大きく伸長し、売上げが前年同期を大幅に上回りました。

化成品につきましては、化粧品原料の売上げは、海外向けが大幅に伸長したことにより、順調に推移しました。アミノ酸化化粧品「ジーノ」およびコンピュータ用の層間絶縁フィルムの売上げは、いずれも前年同期を大幅に上回りました。

〈医薬事業〉

医薬事業の売上高は、前年同期を17億円上回る179億円（前年同期比111.0%）、営業利益は、前年同期を12億円上回る23億円（前年同期比216.4%）となりました。

自社販売品は、薬価改定の影響を受けながらも、肝疾患用分岐鎖アミノ酸製剤「リーバクト」や輸液類が増収となり、経腸栄養剤「エレンタール」も好調に推移したことにより、前年同期を上回りました。提携販売品は、骨粗鬆症治療剤「アクトネル」製剤が増収となり、カルシウム拮抗降圧剤「アテレック」および、糖尿病治療薬「ファスティック」の売上げが大幅に伸長したことから、好調に推移しました。

〈その他〉

その他の事業の売上高は、前年同期を11億円上回る152億円（前年同期比108.5%）、営業利益は、前年同期を6千万円上回る7億円（前年同期比110.3%）となりました。

2. 財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報

当第1四半期末は、前期末に比べて、現金および預金が36億円減少し、棚卸資産が32億円増加したため、流動資産は4億円減少しました。また、有形固定資産が99億円増加し、投資有価証券が87億円減少したこと等により、固定資産は8億円増加しました。以上により、総資産は前期末に比べ3億円増加しました。純資産につきましては、表示の変更により少数株主持分が純資産の部に含まれたことにより、前期末に比べて310億円増加しました。純資産から少数株主持分を引いた自己資本は5,236億円となり、自己資本比率は52.5%となりました。

（注）業績予想の利用に関する注記事項

記載した予想数値は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しております。実際の業績は、今後、様々な要因によって予想数値とは大きく異なる結果となる可能性があります。

四半期連結貸借対照表

(百万円未満切捨て)

区 分	平成18年3月期 (平成18年3月31日現在)		平成19年3月期 第1四半期 (平成18年6月30日現在)		増減	平成18年3月期 第1四半期 (平成17年6月30日現在)	
	金 額	構成比	金 額	構成比		金 額	構成比
資産の部		%		%			%
I 流動資産	425,991	42.7	425,552	42.6	△439	394,200	44.4
現金及び預金	72,168		68,498		△3,670	71,773	
受取手形及び売掛金	196,967		195,043		△1,924	184,981	
有価証券	4,228		3,439		△788	799	
たな卸資産	108,324		111,599		3,275	102,285	
繰延税金資産	10,787		10,804		17	10,082	
その他	34,640		37,299		2,659	25,062	
貸倒引当金	△1,125		△1,133		△7	△784	
II 固定資産	571,413	57.3	572,230	57.4	816	492,745	55.6
1. 有形固定資産	341,950	34.3	351,920	35.3	9,970	309,208	34.9
建物及び構築物	272,416		274,933		2,516	258,472	
機械装置及び運搬具	452,736		453,655		918	431,747	
その他	54,120		54,523		402	49,419	
減価償却累計額	△540,184		△541,184		△999	△509,612	
土地	55,611		56,900		1,288	58,222	
建設仮勘定	47,250		53,093		5,843	20,958	
2. 無形固定資産	68,505	6.9	66,874	6.7	△1,630	43,715	4.9
連結調整勘定	43,194		42,016		△1,177	26,083	
その他	25,311		24,858		△452	17,632	
3. 投資その他の資産	160,957	16.1	153,434	15.4	△7,523	139,821	15.8
投資有価証券	146,151		137,396		△8,754	117,740	
長期貸付金	184		288		104	260	
繰延税金資産	6,616		6,639		23	13,957	
その他	8,692		9,799		1,106	9,363	
貸倒引当金	△687		△689		△2	△1,501	
資産合計	997,405	100.0	997,782	100.0	377	886,946	100.0

(百万円未満切捨て)

区 分	平成18年3月期 (平成18年3月31日現在)		平成19年3月期 第1四半期 (平成18年6月30日現在)		増減	平成18年3月期 第1四半期 (平成17年6月30日現在)	
	金 額	構成比	金 額	構成比		金 額	構成比
負債の部		%		%			%
I 流動負債	237,840	23.8	232,606	23.3	△5,233	211,318	23.8
支払手形及び買掛金	109,092		112,685		3,593	112,570	
短期借入金	24,851		31,500		6,649	24,807	
コマーシャルペーパー	10,000		10,000		—	—	
1年以内返済予定長期借入金	410		694		283	774	
1年以内償還予定社債	—		—		—	10,000	
未払法人税等	7,274		5,849		△1,424	6,384	
賞与引当金	3,897		3,444		△452	3,046	
その他	82,314		68,432		△13,882	53,734	
II 固定負債	198,157	19.9	205,398	20.6	7,241	178,988	20.2
社債	85,000		85,000		—	85,000	
長期借入金	25,382		35,939		10,556	5,463	
繰延税金負債	9,076		6,897		△2,179	2,084	
退職給付引当金	57,234		55,826		△1,408	61,916	
役員退職慰労引当金	1,607		1,776		168	1,341	
その他	19,856		19,960		103	23,182	
負債合計	435,997	43.7	438,005	43.9	2,007	390,307	44.0
少数株主持分							
少数株主持分	32,644	3.3	—		—	27,431	3.1
資本の部							
I 資本金	79,863	8.0	—		—	79,863	9.0
II 資本剰余金	111,579	11.2	—		—	111,579	12.6
III 利益剰余金	341,528	34.2	—		—	314,637	35.5
IV その他有価証券評価差額金	23,848	2.4	—		—	8,371	0.9
V 為替換算調整勘定	△25,547	△2.6	—		—	△42,926	△4.8
VI 自己株式	△2,510	△0.2	—		—	△2,318	△0.3
資本合計	528,762	53.0	—		—	469,207	52.9
負債、少数株主持分及び資本合計	997,405	100.0	—		—	886,946	100.0

(百万円未満切捨て)

区 分	平成18年3月期 (平成18年3月31日現在)		平成19年3月期 第1四半期 (平成18年6月30日現在)		増減	平成18年3月期 第1四半期 (平成17年6月30日現在)	
	金 額	構成比	金 額	構成比		金 額	構成比
純資産の部		%		%			%
I 株主資本	—		531,499	53.3	—	—	
1. 資本金	—		79,863	8.0	—	—	
2. 資本剰余金	—		111,579	11.2	—	—	
3. 利益剰余金	—		342,622	34.3	—	—	
4. 自己株式	—		△2,565	△0.2	—	—	
II 評価・換算差額等	—		△7,859	△0.8	—	—	
1. その他有価証券評価 差額金	—		18,655	1.9	—	—	
2. 繰延ヘッジ損益	—		84	0.0	—	—	
3. 為替換算調整勘定	—		△26,599	△2.7	—	—	
III 少数株主持分	—		36,136	3.6	—	—	
純資産合計	—		559,776	56.1	—	—	
負債及び純資産合計	—		997,782	100.0	—	—	

四半期連結損益計算書

(百万円未満切捨て)

区 分	平成18年3月期 第1四半期 (自平成17年4月1日 至平成17年6月30日)		平成19年3月期 第1四半期 (自平成18年4月1日 至平成18年6月30日)		増減	平成18年3月期 (自平成17年4月1日 至平成18年3月31日)	
	金 額	百分比	金 額	百分比		金 額	百分比
I 売上高	261,454	100.0	276,528	100.0	15,073	1,106,807	100.0
II 売上原価	193,400	74.0	202,471	73.2	9,070	795,007	71.8
売上総利益	68,053	26.0	74,056	26.8	6,003	311,799	28.2
III 販売費及び一般管理費	60,442	23.1	63,806	23.1	3,363	251,476	22.7
営業利益	7,611	2.9	10,250	3.7	2,639	60,322	5.5
IV 営業外収益	3,075	1.2	3,577	1.3	501	10,064	0.9
受取利息	276		353		77	1,287	
受取配当金	346		347		1	1,279	
持分法による投資利益	1,082		1,376		293	3,703	
その他	1,369		1,499		129	3,793	
V 営業外費用	2,073	0.8	2,980	1.1	907	8,938	0.8
支払利息	928		984		56	3,292	
その他	1,145		1,995		850	5,645	
経常利益	8,614	3.3	10,847	3.9	2,233	61,448	5.6
VI 特別利益	1,286	0.5	45	0.0	△1,240	6,981	0.6
固定資産売却益	23		7		△16	4,339	
投資有価証券売却益	1,014		10		△1,004	1,634	
その他	248		27		△220	1,008	
VII 特別損失	654	0.3	1,202	0.4	548	11,261	1.0
固定資産除却損	322		412		90	4,699	
その他	331		789		458	6,561	
税金等調整前四半期(当期)純利益	9,246	3.5	9,690	3.5	444	57,169	5.2
法人税等	4,805	1.8	5,362	1.9	557	19,311	1.7
少数株主利益	982	0.4	707	0.3	△274	2,945	0.3
四半期(当期)純利益	3,459	1.3	3,619	1.3	160	34,912	3.2

事業の種類別セグメント情報

平成18年3月期第1四半期（自平成17年4月1日 至平成17年6月30日）

（百万円未満切捨て）

	国内食品	海外食品	アミノ酸	医 薬	その他	計	消去又は 全 社	連 結
売上高及び営業損益								
売上高								
(1) 外部顧客に対する 売上高	148,940	22,252	60,061	16,145	14,054	261,454	—	261,454
(2) セグメント間の内 部売上高	731	333	6,068	22	12,692	19,849	(19,849)	—
計	149,672	22,585	66,130	16,168	26,746	281,304	(19,849)	261,454
営業費用	145,637	22,019	63,069	15,077	26,076	271,880	(18,037)	253,843
営業利益	4,034	566	3,060	1,091	670	9,423	(1,811)	7,611

（注1）事業区分は、社内カンパニー制における事業運営体制に基づいております。

（注2）各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
国内食品	「味の素」、「ほんだし」、「Cook Do」、スープ類、マヨネーズ類、「パルスイート」、 弁当・惣菜、ベーカリー製品、「アミノバイタル」、冷凍食品、油脂、コーヒー類、飲料、 チルド乳製品等
海外食品	「味の素」、風味調味料、即席麺、飲料等
アミノ酸	食品加工業向け「味の素」、核酸系調味料、飼料用アミノ酸、医薬用・食品用アミノ酸、 医薬中間体、アスパルテーム、化成品等
医薬	医薬品、医療食品
その他	物流、各種サービス他

（注3）営業費用のうち消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は1,811百万円であり、その主なものは、親会社の管理部門にかかる費用及び一部の研究所費用です。

平成19年3月期第1四半期（自平成18年4月1日 至平成18年6月30日）

（百万円未満切捨て）

	国内食品	海外食品	アミノ酸	医 薬	その他	計	消去又は 全社	連 結
売上高及び営業損益								
売上高								
(1) 外部顧客に対する 売上高	150,403	28,133	64,822	17,926	15,243	276,528	—	276,528
(2) セグメント間の内 部売上高	660	421	4,564	35	15,047	20,730	(20,730)	—
計	151,063	28,555	69,386	17,962	30,290	297,258	(20,730)	276,528
営業費用	147,092	25,846	65,288	15,599	29,551	283,378	(17,101)	266,277
営業利益	3,971	2,709	4,097	2,362	739	13,879	(3,628)	10,250

（注1）事業区分は、社内カンパニー制における事業運営体制に基づいております。

（注2）各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
国内食品	「味の素」、「ほんだし」、「Cook Do」、スープ類、マヨネーズ類、「パルスweet」、 弁当・惣菜、ベーカリー製品、「アミノバイタル」、冷凍食品、油脂、コーヒー類、飲料、 チルド乳製品等
海外食品	「味の素」、風味調味料、即席麺、飲料等
アミノ酸	食品加工業向け「味の素」、核酸系調味料、飼料用アミノ酸、医薬用・食品用アミノ酸、 医薬中間体、アスパルテーム、化成品等
医薬	医薬品、医療食品
その他	物流、各種サービス他

（注3）営業費用のうち消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は3,806百万円であり、その主なものは、親会社の管理部門にかかる費用及び一部の研究所費用です。